

# 第4章 都市づくりの基本的課題

## 1. 都市づくりの基本的課題

### 朝日町における都市の現状・住民意向（概要）

#### ■上位・関連計画④

##### 【朝日都市計画区域マスタープラン】

- ・都市計画の基本理念：～みんなで創ろう！人が輝く 高志の国～
- ・都市計画の目標：人と自然、心と心、ふれあうまち あさひ

##### 【第5次朝日町総合計画】

- ・将来像：夢と希望が持てるまちづくり 朝日町

##### 【朝日町人口ビジョン・朝日町総合戦略】

- ・朝日町総合戦略基本コンセプト：変えるんです “朝日町”

##### 【朝日町過疎地域自立促進計画】

- ・地域の自立促進の基本方針：住み続けたいまちづくり  
やさしさがあふれるまちづくり  
活力あるまちづくり

#### ■朝日町の現状

##### 【人口・世帯動向】①

- ・人口、世帯数は平成2年～平成27年まで減少しており、平成27年では2.71人／世帯と核家族化・小世帯化が進行
- ・年少人口及び生産年齢人口が減少、老年人口が増加し、平成27年では約4割が65歳以上
- ・人口動態では、自然動態、社会動態ともに減少し、出生数の少なさや転出超過が顕著
- ・地区別では、境地区、笹川地区、宮崎地区での人口減少が顕著
- ・昼夜間人口比率は約8割と流出超過の傾向が続き、流出先は入善町などの新川広域圏が多数
- ・平成27年の都市計画区域内人口は12,229人、用途地域指定区域内人口は4,691人

##### 【産業動向】⑥

- ・産業大分類（平成27年）では、第3次産業就業者人口が過半数
- ・農業は販売農家数や世帯員数ともに減少、工業、商業についても事業所数や従業者数は減少傾向

##### 【法適用状況】⑥

- ・朝日都市計画区域は5,453.0ha（行政区域面積の約24.0%）、用途地域は229.9haで住居系用途地域が163.0haと約7割

##### 【土地利用状況】④

- ・都市計画区域内では山林が50.3%と最多、次いで農地（田）が28.3%、住宅用地が6.1%
- ・用途地域内では住宅用地が35.1%と最多、次いで農地（田）が29.4%、道路用地が11.3%
- ・農地転用は住宅用地や工業用地への転用が多く、用途地域内より用途地域外での転用が進行
- ・都市計画道路12路線、整備率は65.7%（概成済延長を含む）
- ・棚山ファミリーランド、朝日町総合運動公園、山崎総合運動公園など11箇所を都市公園として指定
- ・下水道全体計画における下水道の整備率（処理人口）は75.2%

#### ■住民意向⑤

##### 【あなたご自身について】

- ・性別は女性、年齢は50歳以上、家族構成は二世帯が多い
- ・**8割以上が長期の居住者**、以前の居住地は6割以上が県内移転
- ・通勤・通学先は町外への流出が多いが朝日町内での通勤・通学も比較的多い
- ・**自動車は通勤などに欠かせない**交通手段
- ・**持ち家志向は根強い**

##### 【あなたのお住まいの地区と朝日町全体について】

###### 【朝日町全体について】

- ・町全体の満足度は、“道路”や“文化・スポーツ施設について”についてが高く、**不満度は、“働く場所”や“まちの賑わい”についてが高い**
- ・働く場所についての不満理由は、“**企業の誘致不足**”、まちの賑わいについての不満理由は、“**商店街の活性化対策が不足**”が多い
- ・住民は過疎化を深刻に受け止めており、特に、“**若者の流出・人口減少**”、“**商店や事業所の減少**”、“**就業の機会・職業の選択余地の不足**”を問題視
- ・町に対する**住民の愛着度は高い**

###### 【住んでいる地区について】

- ・地区の満足度は、“道路”についてが高く、**不満度は“道路”や“防災・防犯”についてが高い**
- ・道路についての不満理由は、“**除雪対策が不足**”、防災・防犯についての不満理由は、“**防犯灯の設置不足**”が多い

##### 【今後のまちづくりの方向性について】

###### 【朝日町の将来イメージ】

- ・朝日町が目指すべきまちづくりを表す言葉（キーワード）は“**活力・賑わい**”
- ・将来の朝日町については、“**医療・福祉のまちづくり**”の要望が多い

###### 【土地利用・都市施設】

- ・将来の土地利用や都市施設の整備では“**商業用地の整備**”を要望
- ・良好な住宅地の形成に向けた取り組みでは“**朝日町定住サポート事業の制度拡充**”を要望
- ・商業地の活性化に向けた取り組みでは“**既存商店街への活性化支援**”を要望
- ・企業誘致を図るための取り組みでは“**企業への財政的な支援**”を要望

###### 【観光】

- ・観光振興を図るための取り組みでは“**ヒスイ海岸・オートキャンプ場周辺の整備**”を要望

###### 【道路・公共交通】

- ・道路整備に関する取り組みでは“**道路の消雪・融雪装置の整備**”を要望
- ・公共交通のあり方に関する取り組みでは“**泊駅周辺の駐車場整備**”を要望

###### 【公園・緑地】

- ・公園・緑地に関する取り組みでは“**子どもや高齢者が憩う身近な公園の新設**”を要望

###### 【景観形成】

- ・魅力ある景観づくりに向けた取り組みでは“**緑豊かな山林の保全管理**”を要望

###### 【安全・安心なまちづくり】

- ・安全・安心なまちづくりに向けた取り組みでは“**防犯灯の増設**”を要望

###### 【教育・文化・スポーツ施設】

- ・教育・文化施設に関する取り組みでは“**現在のままでよい**”との回答が多い
- ・スポーツ施設に関する取り組みでは“**現状のままでよい**”が多い

###### 【過疎対策】

- ・過疎対策に向けた取り組みでは“**働ける場所の確保**”を要望
- ・移住者の受け入れに向けた取り組みでは“**就業先の確保**”を要望

### 都市づくりの基本的課題

#### 課題1：まちなかの賑わいの創出

- ▶都市機能の集約化などによる賑わいのあるコンパクトなまちづくり④⑤⑥
- ▶都市計画道路などの道路整備の促進や身近な公園の充実、下水道等の適正な維持管理④⑥
- ▶人口減少社会に対応した移住・定住の促進と受け皿となる住環境の整備④⑤⑥
- ▶用途地域などの法適用状況に即した計画的な土地利用④⑥

#### 課題2：住み慣れた集落地での暮らしの確保

- ▶まちなかと各地区の集落地を連携する交通ネットワークの強化④⑤⑥
- ▶住み慣れた集落地におけるインフラ施設の適正な維持管理④⑤⑥

#### 課題3：朝日町の地域特性を活かした産業基盤づくり

- ▶農林漁業の振興を支援する都市基盤の整備④⑥⑦⑧
- ▶観光産業を支援する都市基盤の整備④⑥⑦⑧
- ▶多様な産業の集積や新産業の育成による若者などの雇用の場の充実④⑤⑥⑦⑧

#### 課題4：良好な自然環境と調和したまちづくり

- ▶ヒスイ海岸や朝日県立自然公園などの良好な自然環境と調和したまちづくり④⑥
- ▶住宅地や道路沿道の緑化などによる都市景観の向上④

#### 課題5：町民の暮らしを守る安全・安心なまちづくり

- ▶まちなかなどにおける密集住宅地の解消や空き地・空き家の改善、防犯対策⑥
- ▶地震や津波などの災害に対応した避難路・避難場所の確保、ライフラインの安全対策、除雪対策⑥
- ▶少子高齢化社会に対応した医療・福祉の充実④⑥

#### 課題6：住民主体、連携・協働のまちづくり

- ▶住民・事業者・行政の連携・協働によるまちづくり④
- ▶自治振興会活動などによる住民主体のまちづくり④
- ▶北陸新幹線の開業などを踏まえた広域連携の強化④

※都市づくりの基本的課題について、④：上位・関連計画、①：人口・世帯動向、⑥：産業動向、⑥：法適用状況、④：土地利用状況、⑤：住民意向 に関する課題

## 2. 都市づくりの基本的課題のまとめ

### (1) 課題1：まちなかの賑わいの創出

#### ●都市機能の集約化などによる賑わいのあるコンパクトなまちづくり

泊地区に形成されたまちなかは、国道8号などの幹線道路が集中するとともに、あいの風とやま鉄道泊駅が位置し、交通の利便性が高い。また、住民の生活を支える生活道路や下水道は比較的整備され、朝日町役場、県立泊高等学校、あさひ総合病院、朝日町図書館・明治記念館、五叉路 Cross Five などの都市機能が集積している。このような既存ストックを活かしながら、更なる都市機能の集約化を進めるほか、商店街の活性化などを進め、人々で賑わい、高齢者など誰もが暮らしやすいコンパクトなまちづくりが必要である。

#### ●都市計画道路などの道路整備の促進や身近な公園の充実、下水道等の適正な維持管理

まちなかについて、都市計画道路の整備率は約6割にとどまり、また、公園・広場は朝日町文化体育センター（サンリーナ）、歴史公園、あさひ城山公園、三峯グリーンランド、棚山ファミリーランドなど大きな公園は整備されているが、身近な公園は少ない。そのため、都市計画道路の整備促進や、住民の憩いの場となる身近な公園を充実させるとともに、まちなかで快適に暮らし続けられるように道路・公園・下水道等の適正な維持管理が必要である。

#### ●人口減少社会に対応した移住・定住の促進と受け皿となる住環境の整備

朝日町の人口は年々減少し、平成27年では12,246人となっている。上位計画である「朝日町総合戦略・朝日町人口ビジョン」では、朝日町の人口を平成72年において7,000人を目標にしている。このような背景から、「朝日町総合戦略」では基本目標の一つに“町への人の流れをつくる、町に人を呼び込む”ことを掲げている。また、山間部の自然に囲まれた笹川地区では、移住を検討する人が地域の暮らしを体験できる「さゝ郷ほたる交流館」が整備されるなど、移住・定住促進に向けた取り組みが進められている。そのため、今まで暮らしてきた住民はもとより、新たに朝日町に移り住みたい人が生活できる住宅整備などが必要である。

#### ●用途地域などの法適用状況に即した計画的な土地利用

まちなかでは用途地域（住居系3地域、商業系2地域、工業系2地域）が指定されている。今後も、用途地域の指定ルールを遵守し、まちなかの賑わい創出に向けた未利用地の活用や住民生活に支障のある土地利用の混在を防止し、用途の純化などを進めることが必要である。

## (2) 課題2：住み慣れた集落地での暮らしの確保

### ●まちなかと各地区の集落地を連携する交通ネットワークの強化

将来、朝日町の人口が減少していくことを考えれば、都市機能が集積した泊地区のまちなかを中心としたコンパクトなまちづくりは必要であるが、五箇庄、大家庄などの平野部、宮崎・境などの海岸部、南保・山崎・笹川などの山間部の地域住民が、これからも住み慣れた地区で快適に暮らせることが求められる。そのため、都市機能が集積したまちなかと、まちなか以外の集落地を連携するため、あさひまちバスなど公共交通の利便性をさらに高めることが求められる。

### ●住み慣れた集落地におけるインフラ施設の適正な維持管理

これまで住み慣れた朝日町で今後も快適に暮らし続けるには、道路、公園、集落地における基幹施設などの維持は欠かせない。また、地区レベルでの道路に関する住民の不満度（除雪対策の不足など）は高く、町道など身近な生活道路の整備などに対する要望は強い。そのため、まちなかと連絡する国道8号、県道朝日宇奈月線などの幹線道路はもとより、身近な生活道路の整備や維持管理、身近にある農村公園などの公園、地区公民館などを適正に維持管理することが必要である。

## (3) 課題3：朝日町の地域特性を活かした産業基盤づくり

### ●農林漁業の振興を支援する都市基盤の整備

朝日町の産業は第3次産業人口が過半数を占めているが、今後は6次産業化など、収益性を高める取り組みが必要である。そのため、農林漁業が衰退しないよう、あらたな担い手の確保・育成に力を入れ、農林漁業の振興を支援することが必要である。

### ●観光産業を支援する都市基盤の整備

朝日町には、自然を活かしたヒスイ海岸・オートキャンプ場、舟川桜並木など、魅力的な観光地が多くある。これら観光地を活かした産業基盤を創出するとともに、多くの人々を呼び込むため、観光地周辺の整備が必要である。

### ●多様な産業の集積や新産業の育成による若者などの雇用の場の充実

住民意向調査によれば、働く場所に関する住民の不満度（企業の誘致不足など）は高く、働ける場所の確保などに対する要望は強い。そのため、朝日町の将来を担う若者の流出を防ぐためにも、産業基盤の拡充や企業の誘致などを推進し、多様な産業の集積や新産業の育成により、若者などの雇用の場を充実する必要がある。

#### (4) 課題4：良好な自然環境と調和したまちづくり

##### ●ヒスイ海岸や朝日県立自然公園などの良好な自然環境と調和したまちづくり

朝日町の約8割以上は山林であり、ヒスイ海岸や朝日県立自然公園、大家庄・山崎地区に広がる田園などの自然環境と、まちなかや集落地が調和した環境が形成されている。また、住民意向調査によれば、魅力ある景観づくりに向けて緑豊かな山林の保全管理が求められている。そのためにも、今後、朝日町の魅力である美しい自然環境と都市環境が調和したまちづくりを推進する必要がある。

##### ●住宅地や道路の緑化などによる都市景観の向上

良好な自然環境と調和した都市環境を形成するには、住民の日常的な生活の場となる住宅地、多くの人が行き交う幹線道路沿いなどの景観形成が求められる。そのため、移住・定住の促進に向けた住宅地の整備や都市計画道路の整備と合わせた緑化の推進など、都市景観を向上する必要がある。

#### (5) 課題5：町民の暮らしを守る安全・安心なまちづくり

##### ●まちなかなどにおける密集住宅地の解消や空き地・空き家の改善、防犯対策

今後懸念される人口減少や高齢化の進行に伴い、人口・世帯数の減少が著しい地区において、空き地・空き家が増加することが考えられるとともに、密集住宅地の空き家については火災・倒壊などにより被害が拡大することが懸念される。また、住民意向調査によれば、地区レベルでの防災・防犯に関する住民の不満度（防犯灯の設置不足など）は高く、防犯灯の増設などに対する要望は強い。そのため、まちなかなどにおける密集住宅地の解消や空き地・空き家の対策、防犯灯の設置費に対する助成制度の拡充など、防犯対策が必要である。

##### ●地震や津波などの災害に対応した避難路・避難場所の確保、ライフラインの安全対策、除雪対策

近年では、大規模な地震・津波、大雨などの自然災害が多発しており、海岸沿いの集落や山沿い・山間の集落で、大規模な自然災害が発生した場合に備え、避難路・避難場所、ライフラインの確保などの防災対策や、住民からの要望が強い除雪対策を進める必要がある。

##### ●少子高齢化社会に対応した医療・福祉の充実

朝日町では少子高齢化が進み、平成27年では約4割が65歳以上となっている。また、住民意向調査によれば、将来の朝日町について医療・福祉のまちづくりの要望が強い。そのため、少子高齢化社会に対応し、子どもや高齢者が安全・安心に暮らすことができるよう、医療・福祉の充実が必要である。

## (6) 課題6：住民主体、連携・協働のまちづくり

### ●住民・事業者・行政の連携・協働によるまちづくり

まちづくりには、朝日町に暮らす住民や、朝日町に関わりを持つ事業者が積極的に参加するとともに、「第5次朝日町総合計画」、「朝日町総合戦略・朝日町人口ビジョン」などに示された朝日町の方針を住民などと行政が共有し、住民・事業者・行政が連携・協働して、まちづくりを進めることが必要である。

### ●自治振興会活動などによる住民主体のまちづくり

朝日町の発展には、住民・事業者・行政の連携・協働によるまちづくりのもと、各地区における環境美化、自主防災など自治振興会の活動などを通して住民相互の連帯感を強めるとともに、朝日町に暮らす住民が主体となったまちづくりが必要である。

### ●北陸新幹線の開業などを踏まえた広域連携の強化

平成27年3月に北陸新幹線が開業し、黒部市には黒部宇奈月温泉駅が整備され、これに伴い経営分離された並行在来線（あいの風とやま鉄道）については、住民の日常的な交通手段の一つとして、利便性の確保が求められている。そのため、黒部宇奈月温泉駅を中心とした新川広域圏での連携や、あいの風とやま鉄道沿線市町との連携の強化が必要である。